

平成 30 年 9 月 3 日

東京厚生信用組合

第 8 回 経営諮問会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者で構成される「経営諮問会議」を設置しております。

本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第 8 回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

なお、第 9 回会議は、平成 31 年 1～2 月頃に開催する予定です。

— 記 —

1. 日 時 平成 30 年 7 月 26 日（木） 10：00 ～12：00

2. 場 所 東京厚生信用組合 本店

3. 出席者

（経営諮問委員）（五十音順、敬称略）

鈴木 豊 （公認会計士・税理士）

傳田 純 （東京都商工会連合会 専務理事）

西岡 修 （社会福祉法人 白十字会 白十字ホーム ホーム長）

（東京厚生信用組合）

田代 智彦 （理事長）

中山 功 （常務理事）

高原 伸二 （常務理事）

平山 圭樹 （常勤監事）

杉本 康幸 （企画部長）

4. 田代理事長挨拶骨子

- ・本年 6 月の総代会で新たに理事長として選任された田代です。本日は、平成 29 年度の決算概況や今年度の事業計画とその進捗状況を説明させていただき、その後、委員の皆様から忌憚のないご意見等をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

5. 当組合からの説明内容

・杉本企画部長より、以下の内容について説明いたしました。

- ①平成 29 年度決算概要
- ②第 66 期事業計画及び収支予算
- ③経営強化計画の計数計画履行状況（平成 30 年 6 月末）
- ④経営強化計画の施策の実施状況（平成 30 年 6 月末）

・中山常務理事より、以下の内容について説明いたしました。

- ①次期経営強化計画の立案に係る体制等

6. 会議における主な意見

出席委員の皆様から、以下のようなご意見・ご提言をいただきました。

- 平成 29 年度決算は、厳しい環境の中で、4 指標などそれなりの数値が残せたと思われる。全役職員が頑張った結果だと思うが、もう一層の頑張りを期待したい。
- 不良債権の回収が進み、30 年 3 月末の不良債権比率が、29 年 3 月末に比し低下したことについては理解した。
- 担保・保証に過度に依存しない融資の推進や、創業・新事業開拓支援における活動内容については理解した。
- 平成 30 年 6 月末時点における経営強化計画の履行状況は、ここ数年の同時期（期間）の取組結果と比べ、概ね、計画通りに進捗していると思われる。
- 不動産業向け貸出については、過去の不動産業向け融資の失敗や信用リスクの観点から、組合で内部規制値（総枠規制）を設けたり、審査上の留意点を纏めるなど、一定のリスク管理を行っているとのことだが、資金使途である物件の適否、融資先の経営状況、申込の経緯などを慎重に見極めて取り組んでほしい。
- 不動産業向け貸出については、リスク管理の観点から、サブリースについても留意が必要である。
- 事務ミスについては、事務ミス内容の共有化、本部による指導等を実施しているようだが、事務処理能力の向上のためには、組合全体として目線の統一を図り、対応策等を着実に実施することが必要である。
- 金融機関での勤務が厳しいためか、ここ最近、金融機関からの転職希望者が増加しているように感じている。また、一方で、ビジネススキルを身につけた商業高校卒業生の活用も言われている。当組合としても大学卒業生だけでなく、高校出身者の採用なども検討してみてはどうか。
- 中小企業診断士による「東京都よろず支援拠点出張相談会」は好評だったということだが、これに限らず、外部機関を利用した相談会等の開催は、顧客サービスとして有用なので、積極的に活用していただきたい。

- 国は、介護分野の慢性的な人手不足を解消するため、外国人労働者の活用を進めている。しかしながら、技能修習生などで採用する場合、住宅の確保や日本語教育を義務付けられており、その費用負担の問題や、日本でノウハウを身につけても短期間で帰国するのではないかという懸念などもあり、国と介護等の現場に大きな乖離がある。

7. 田代理事長からの回答

本日は、大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

以上